



Science For A Better Life

日本のバイエル  
企業広報誌  
Corporate Newsletter  
of Bayer in Japan

和

# Harmony

No. 95  
Dec. 2015

>>>06

ロボット起用でイノベーティブな  
イベントを実施



>>>08

わくわく実験びっくり箱2015

>>>09

エンployヤー・ブランド  
連載 Vol.2



>>>10

女性の健康教育に関する  
講師派遣授業  
「かがやきスクール」

>>>12

バイエル、  
ライフサイエンス事業に沿った  
組織に改編

>>>13

Bayer Topics

>>>02



農業の未来を担う100人の若きリーダーが世界中から結集

## 「第2回世界若者農業サミット」を オーストラリアで開催

100 young leaders from across the globe meet in Australia for the 2nd Youth Ag-Summit



農業の未来を担う100人の若きリーダーが世界中から結集

# 「第2回世界若者農業サミット」をオーストラリアで開催

100 young leaders from across the globe meet in Australia for the 2nd Youth Ag-Summit

2015年8月、バイエル クロップサイエンス社は、フューチャー・ファーマーズ・ネットワーク (FFN) と共同で「第2回世界若者農業サミット」を開催した。テーマは「Feeding a Hungry Planet (地球レベルでの食糧安定供給について)」。

バイエルでは、農業がいかに魅力的な職業であるかを広く認知させるとともに、次世代の農業を担うリーダーの発掘・育成をしていくことを掲げている。その中で、世界33カ国から文化や背景の異なる若きリーダー100人を集めてサミット開催。サポート役としてバイエルの社員などからなる各国37人のメンターも参加した。

会場となったオーストラリアのキャンベラでは、日本人2人を含む農業の未来を担う18歳から25歳の若者たちが、さまざまな知恵を出し合い、農業と食糧問題の未来について話し合った。また、2人の代表を選出し、4日にわたるディスカッションを通じて創出された行動提言を、10月に開催された国際連合食糧農業機関 (FAO) の第42回世界食料安全保障委員会 (CFS) で「キャンベラ宣言」として発表した。

Bayer CropScience and Future Farmers Network Australia hosted the 2nd Youth Ag-Summit in Canberra last August, bringing together 100 youths from 33 countries—including Japan—to discuss the theme “Feeding a Hungry Planet.” This event is part of Bayer’s efforts to highlight the appeal of careers in agriculture and nurture future farmers. Aided by 37 mentors, including some Bayer members, the delegates shared ideas for solving world hunger that were presented at a Food and Agriculture Organization meeting in October.



第42回 世界食料安全保障委員会「キャンベラ宣言」代表者  
オーストラリアのローラ・グラブさんとケニアのサンバ・オウマさん

オーストラリアの国会議事堂前で



イギリス: 3  
イタリア: 2  
エストニア: 1  
オランダ: 3  
スペイン: 2  
ドイツ: 4  
トルコ: 2  
ハンガリー: 2  
フランス: 4

ベルギー: 1  
ポーランド: 2  
ケニア: 2  
南アフリカ: 2  
オーストラリア: 23  
ニュージーランド: 7

サミット参加国・参加人数一覧

アメリカ: 5  
カナダ: 4  
アルゼンチン: 1  
ウルグアイ: 1  
チリ: 1  
パラグアイ: 1  
ブラジル: 1  
ボリビア: 1  
インド: 2

インドネシア: 6  
韓国: 1  
シンガポール: 2  
タイ: 2  
中華人民共和国: 3  
日本: 2  
フィリピン: 3  
ベトナム: 2  
マレーシア: 2

このサミットの最大の意義は、同じ志をもつ世界中の仲間の、力強くユニークなネットワークを構築できたこと。そして、この経験やつながりを一過性のものとしないうちに「世界若者農業ネットワーク」として、オンライン・プラットフォームが設けられた。若いリーダーたちは、これからも互いを支え、刺激し合いながら学び続けるために、SNSを通じてつながっていく。

## さまざまなアイデアや多面的な視野を生み出すサミットプログラム

A four-day program for creating diverse ideas and perspectives

4日間、早朝から盛りだくさんのサミットプログラムは、日替わりの多彩なゲストスピーカーの講演でスタートした。前向きな刺激を受けた参加者たちによる、熱のこもったグループ・ディスカッションが展開。そして夜には、さまざまな形で参加者同士の文化交流の場ももたれた。

ジュリー・ポーローグさんのオープニング・スピーチで幕を開けた「世界若者農業サミット」。2013年にカナダで開催された第1回サミット参加者のパネル・ディスカッションや、最終日にそれぞれが行う行動宣言「3つの約束」を念頭に置いて、ここからの4日間を過ごしてほしいことなどが告げられた。夜にはオーストラリア・ナショナルギャラリーでカルチャー・ネットワーキングディナーが開催され、参加者には互いの文化や、オーストラリア先住民族の歴史に触れる貴重な機会となった。

Day 1  
8/24

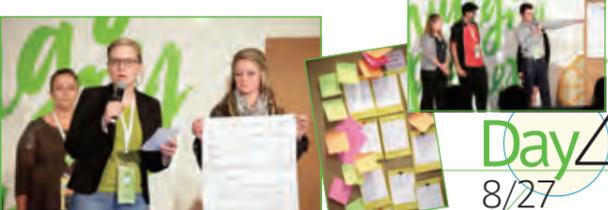


Day 2  
8/25

2日目は世界の農業に影響を与えるメガトレンドを掘り下げることから始まり、午後には「ソリューションズ・マーケットプレイス」が開かれた。ソリューションズ・マーケットプレイスでは、WWF (世界自然保護基金)、ACIAR (オーストラリア国際農業研究センター)、マイクロファイナンスを推進するRabobank、ノーマン・ポーローグ国際農業研究所など10の団体・組織が説明用ブースを設置。参加者たちは各ブースを自由に訪れ、農業のさまざまな分野とその取り組みについて知見を深める機会を得た。

3日目はCSIRO (オーストラリア連邦科学産業研究機構) の農場訪問。オーストラリアの大規模農場の運営状況や、最先端テクノロジーを駆使した育種技術、雑草管理、超大型農機などのプレゼンテーションを受けた。農場運営にかかわるさまざまなイノベーションを目の当たりにし、参加者は大いに刺激を受けた。また、南半球の8月は冬のため農場視察はできなかったが、酪農大国でもあるオーストラリアの羊毛牧場での毛刈りの工程も体験した。

Day 3  
8/26



Day 4  
8/27

サミット参加者の応募論文をもとに選定された15のテーマを、4日間のディスカッションを経て5つに絞り込み、最終日には「キャンベラ宣言」の骨子として固めた。思いを行動に起こすことの大切さを説くトッド・サンブソンさんの講演でサミットは締めくくられ、参加者はそれぞれの場で、ここから何ができるか、何をすべきか、という決意を新たに。最終日のディナーでは参加者が自国の伝統衣装に身を包み4日間の熱い時間を共にした仲間との別れを惜しんだ。

### 多彩なゲストスピーカーが登場

毎日、その日のテーマやトピックスに合わせて幅広いジャンルから13人のゲストスピーカーが登場。参加者たちの地平線を広げるような刺激や、ディスカッションのヒントが与えられた。



**ジュリー・ポーローグ**  
「緑の革命」を主導し、ノーベル平和賞を受賞した故ノーマン・E・ポーローグ博士の孫娘。地球上から飢えと貧困をなくしたいというポーローグ博士の遺志を継ぎ、農業におけるイノベーションと技術の発展および、それを担う人材育成を目指し、官・民・慈善団体間の効果的なパートナーシップを実現するための活動を続けている。

「科学者、政策立案者、農家などをつないで、祖父が『緑の革命』を成し遂げたように、知恵を出し合いイノベーションに取り組むことが重要。世界を変えようという思いを抱くのには遅すぎることはありません。若い皆さんには積極的に現場に飛び込んで、ビジョンを示してもらいたいです」

### Main Guest Speakers



**ナエラ・チョーハン女史**  
主として途上国における女性の地位向上活動続けるパキスタンの在オーストラリア高等弁務官。  
「女性の地位向上」



**マイケル・クリム**  
元オーストラリア水泳チャンピオン。LEGENDAIRYSポークスパーソン。  
「目標を定め、そこに向かって取り組む姿勢」



**トッド・サンブソン**  
地球規模で環境問題に警鐘を鳴らす取り組み「世界アースアワー」創始者のひとり。  
「とにかく、まずは行動を起こす」

## 世界の仲間を得て、今後の活動に向け意欲を燃やす日本代表

With new friends around the world, Japan's delegates pledge to actively share insights gained

世界各地から集まったサミット参加者とともに議論を重ね見識を深めた、日本の若きリーダー2人に、サミットの感想をうかがった。



### 高尾育穂さん

横浜市立大学 国際総合科学部卒業。NTT東日本勤務。中学1年生のアメリカでのホームステイに始まり、数々の留学や豊富な海外経験で国際的視野を広げる。現勤務地であり、最初の配属先でもある福島では、自治体や企業に対し農業やほかの分野にかかわるICT(情報通信技術)ソリューションの提案営業を担当している。

私は仕事で福島を中心に農業ICTの普及に携わっていますが、今回フィールドワークで実際にオーストラリアの大規模農業で活用されている農業ICTを見ることができ、アイデアを得ることができました。重要なのは、いかにそのアイデアや仕組みから学び、どう自分の土地の課題に合わせてアレンジするかということ。ディスカッションなどで多角的かつ多様に富んだ意見に刺激を受け、改めて「グローバル規模で考え、現地にあわせて行動する」「現地で考え、地域にあわせて行動し、グローバルの仕組みを活用する」という2つの視点の重要性に気がつきました。

サミットは終了しましたが「ここからがスタート」という思いを強くしています。今後、福島の農家や自治体の農村課などでさらに踏み込んだ話を聞くことで、現状と課題を深く理解することに注力したいと思います。現場を知ってこそ、「世界若者農業サミット」で学んだ課題解決の例を生かし、より一層現地に合った有益なICTソリューションの提案をすることが可能になると考えています。

I gained ideas on agricultural ICT in Australia and now I need to figure out how to adapt them to where I serve, Fukushima. The summit may have ended, but my work is just starting. I will try to gain a better understanding of the local situation and challenges and strive to develop helpful, tailored ICT solutions for farmers in Fukushima using what I learned.



アジア/太平洋地域の参加者



### 永澤拓也さん

千葉大学 園芸学部卒業。タイのカセサート大学への留学や、国連食糧農業機関でのインターンなど農業を主軸とした多数の海外経験を持つ。日米学生会議の参加や「国際即戦力インターンシップ事業」に採択された成果により千葉大学より学長表彰されている。2015年9月よりオランダ・ワーヘニンゲン大学修士課程に在籍。

私はタイでの農業ステイ、バングラデシュでのインターン経験などを通し、発展途上国の農村開発に興味を持つようになりました。地域に密着した現場第一主義の農業政策立案に貢献したいと考え、さまざまな取り組みを行っています。「世界若者農業サミット」では、これまでの経験から得たアイデアや日本の事例を議論に生かせるよう、アウトプットすることを一番の課題にしていたのですが、自分が日本の代表として情報を発信していくことに言葉以上の重みを感じました。また同時に、少数派の意見に気づき、それを議論に載せるようなファシリテーターになりたいと強く思うようになりました。

ディスカッションなどのワークショップを体験した今、このサミットは各参加者がそれぞれの立場で行動を起こし、貢献していくための起爆剤だと感じています。現場を動かして変化をもたらすには、強い意志と仲間が必要です。今回のサミットで多くの出会いを得て「情熱のある若者がこれほど大勢いるなら、自分たちできると何かできるはずだ」と実感しています。

I want to contribute to rural development in developing countries, and the summit inspired me to want to become a facilitator who picks up on minority opinions and incorporates them in discussion. The summit workshops provided us with the impetus to take action now and make a difference. And, meeting so many passionate young people at the summit gave me the inspiration to get things done.



## 変化をもたらすためのアクション「3つの約束」

### 一人一人の約束が大きなウェーブに

"Three little things" — Each delegate's pledges ripple out to bring change

「世界若者農業サミット」の最終日、参加者100人+メンター37人の全員が、それぞれの場に戻ってから行動を起こすために、自分ができる具体的なアクションプランを「3つの約束」として宣言。合計で400を超えるアクションプランが生まれた。今後も参加者同士がつながり、互いの行動を刺激し合うことで、大きな変革のウェーブを起こすことが期待される。日本から参加した高尾育穂さんと、永澤拓也さんの「3つの約束」は以下の通り。



#### 高尾育穂さんの「3つの約束」

- 1, Share my summit experience with friends, family and colleagues**  
本サミットの経験を一人でも多くの人と共有する
- 2, Visit farmers/growers and learn more about the real situation**  
農家や農業関係者を訪問し、よりリアルな現状を理解する
- 3, Act as a global citizen: "Think globally, Act locally"**  
地球の一市民として考え、行動する — "Think globally, Act locally (グローバル規模で考え、現地にあわせて行動する)" & "Think locally, Act regionally, Leverage globally (現地で考え、地域にあわせて行動し、グローバルの仕組みを活用する)"



#### 永澤拓也さんの「3つの約束」

- 1, Share the experience!**  
本サミットで得た知識や経験、刺激を共有する
- 2, Keep talking with other delegates, and visit their countries**  
各参加者とのネットワークを保ち、実際に訪問することで、対話を深め、よりローカルな問題に触れる
- 3, Visit Japanese rural villages again**  
日本の農村をもう一度訪問し、日本の農業・農村問題に精通し、日本の素晴らしさに気づき続けるため常に学び続ける

### ■メンターから見たサミット From Mentor's eye

各国の参加者たちは「自国の状況を共有したい、他国のことをもっと知りたい」という意識が強く、会場は終始熱気にあふれていました。私自身も大いに刺激を受け、このようなサミットを開催できるバイエルで働いていることを改めて誇りに感じた日々でした。



メンターの役割のひとつは、参加者の活発な発言や議論を促すことです。言語の壁はさほど感じられなかった一方で、グループ・

バイエル クロップサイエンス株式会社  
社長室 マネジメントサポート

#### 芝原 恵

ディスカッションの場では、幼少期から「ディベート」を学校教育で自然に身につけてきた欧米の参加者と、そうした場の少ないアジア/アフリカなどの参加者では、発言の量やスピードに歴然とした差が出てしまいました。これをどのようにサポートし、全員が発言しやすい環境をつくるかという宿題を次回のメンターに託します。私自身は、この体験を大切に育み、今後も永澤さん、高尾さんら参加者の「3つの約束」の実現をサポートしていきたいと思っています。

As a summit mentor, I myself was inspired by the delegates' passion to share their knowledge and learn from others, and I also felt renewed pride to be a member of Bayer. I will continue to support Ikuho and Takuya as they put into practice their "three little things."

バイエルは今後も「世界若者農業サミット」を隔年で開催し、若きリーダーたちの学びの場を設け、食糧安定供給など世界的な農業課題に光をあてつつ、農業の未来を支えていく。次回の「世界若者農業サミット」は、2017年にヨーロッパでの開催が予定されている。

Bayer will continue hosting Youth Ag-Summits to provide young leaders with a forum to learn from one another and develop ideas for solving challenges in agriculture and food security.



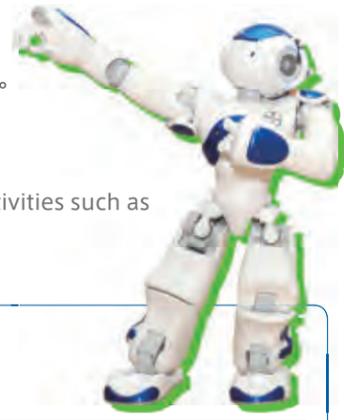
ヒューマノイドロボット「NAO」が登場!

# ロボット起用で イノベーティブなイベントを実施

NAO the robot helps Bayer to highlight its spirit of innovation at events

今回の自立型ヒューマノイドロボット「NAO(ナオ)」の登場は、イノベーションを重視するバイエルが最先端ロボット技術をイベントに取り入れた初の試み。疾患啓発イベント「血栓症予防ラボ」や小学校を訪問する「わくわく実験びっくり箱」で、イベントの盛り上げに大きく貢献した。

Recently, Bayer in Japan has used the humanoid robot NAO to help liven up outreach activities such as disease awareness events "Thrombosis Prevention Laboratory" and Making Science Make Sence school visits.



## 静脈血栓塞栓症(エコミークラス症候群)啓発イベント 「血栓症予防ラボ」

Raising awareness about venous thromboembolism (economy class syndrome) in Tokyo

バイエル薬品は、昨年に制定された『世界血栓症デー』(毎年10月13日)の設立グローバルパートナーとして、エコミークラス症候群として知られる静脈血栓塞栓症の理解・認知を広める目的で、2015年10月13日に東京駅構内八重洲中央コンコースにて、疾患啓発イベント「血栓症予防ラボ」を開催した。ロボットのいる近未来のラボをイメージしたブースでは、1日所長を務めた振付師のラッキー池田さんが、「NAO」と一緒

に静脈血栓塞栓症予防につながるオリジナルエクササイズを会場の皆さんと行った。とかく固くとなえがちな疾患啓発イベントにおいても、愛らしい「NAO」の呼びかけや仕草に、小さな子どもからご年配の方まで多くの方が立ち止まって積極的に参加していただき、たくさんのコミュニケーションをとることができた。



静脈血栓塞栓症について理解を深めるクイズラリーを実施。「NAO」が担当する答え合わせには行列が。



ラッキー池田さん考案のオリジナルエクササイズ!  
(エクササイズ動画 <http://www.kessensho.net/ja/home/movie/taisou.php>)



日本血栓止血学会理事長・尾崎由基男先生(写真・左)とバイエル薬品・早崎剛典氏(医学博士)による、静脈血栓塞栓症の発症リスクや予防についてのミニレクチャー!



静脈血栓塞栓症をわかりやすく解説したパネル展示に加え、小冊子も配布。



…自立型ヒューマノイドロボット「NAO」とは…

イベントキャラクターとして参加した「NAO」は、フランスのアルデバラン・ロボティクス社が開発した自立型ヒューマノイド(人型)ロボット。多くのセンサーとカメラ、マイクを内蔵、19カ国語を操り、さらに人の顔や感情も認識できる先端技術を持つ。



## 体験・質問型の理科実験教室「わくわく実験びっくり箱」

Making Science Make Sence, Bayer's hands-on science lessons in Nagano

バイエルの社員が講師や実験アシスタントとなり科学の面白さを伝える活動として、2003年から小学生を対象に毎年行われている「わくわく実験びっくり箱」。楽しい実験を通して「なぜ」「どうして」という、子どもたちに本来備わっている好奇心を高め、科学の理解力向上に役立てることを目的としている。

2015年11月5日、長野県・長野市立真島小学校で開講された「わくわく実験びっくり箱」では「NAO」が講師アシスタントとして参加。「～パンの発酵やにんじんロケットに学ぶ～ 身近にひそむ酵素とそのはたらき」がテーマの実験教室で、子どもたちの理科への関心を引くためにナビゲーターとして活躍した。



「パンの発酵実験」「酵素によるでんぷん消化実験」「酵素とオキシドールの反応実験」などを実施。子どもたちの科学への興味と理解を深め、生活に身近なものを使って楽しく理科実験が行われた。



講師はバイエルの社員が務める。「NAO」の自己紹介では「ようかい体操第一」も披露された。

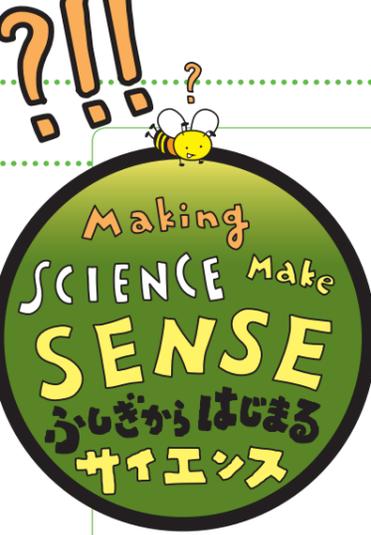


「にんじんロケットの実験」。すりおろしたにんじんとオキシドールをフィルムケースに入れるとケースが高く跳ね上がり、体育館は子どもたちの歓声に包まれた。



パン生地がふくらんでいるのを確認できたかな?!

「わくわく実験びっくり箱2015」訪問した小学校と講師の声は次ページで紹介⇒



# わくわく実験びっくり箱2015 ～パンの発酵やにんじんロケットに学ぶ～ 身近にひそむ酵素とそのはたらき 長野・山梨・鹿児島 レポート!!

MSMS 2015: Schoolkids in Nagano, Yamanashi and Kagoshima learn about enzymes and fermentation in fun science experiments with everyday items



## 子どもたちと一緒に生活に身近なものを使って楽しく理科実験

Doing fun science experiments with kids, using everyday items

### 11月5日 長野県・長野市立真島小学校



**坂田和哉**  
バイエル ホールディング株式会社  
インフォメーションテクノロジー

講師

「実験の数が多すぎるかな、と思っていましたが、子どもたちの反応が良く、充実した授業でした。もっと多くの社員にサポートスタッフとして参加してもらい、訪問の回数を増やしてもいいのではないかと思います」



### 11月11日 山梨県・甲府市立北新小学校



**平田裕彦**  
バイエル薬品株式会社  
動物用薬品事業部 / 開発・事業

講師

「次々とテンポ良く実験を進めていくので、飽きさせないプログラムになっています。広い体育館で実施した『にんじんロケット』は大盛り上がり。バイエルのイベントとしての意義や重要性を実感することもできました」



### 11月19日 鹿児島県・始良市立竜門小学校



**北口智基**  
バイエル ホールディング株式会社  
経営企画

講師

「子どもたちに科学への興味を持ってもらう『わくわく実験びっくり箱』のテーマには非常に共感できました。子どもたちが楽しそうに実験する姿を見て、鹿児島まで行ったかいがあり、大満足の日でした」



## 子どもたちからは「参加して面白かった!」の感想がたくさん寄せられた

Kids heap praise on MSMS as a fun learning experience

酵素を入れるとパン生地がふくらんだことに驚きました! どうしてだろう?

にんじんとオキシドールでフィルムケースがあれだけ高く飛んだので、ほかのモノにしたらどうなるんだろう?

理科は苦手だったけど、今日の授業は楽しくて理科が好きになりました!

パン生地は1日待っていたけどのんびりふくらむのが知りたくなりました!

また機会があれば、ほかの実験をもっとやってみたいです!

「にんじんロケット」は家でやりたいと思いました!

身の回りにあるもので、いろいろなことができるのはスゴイ!

ほかに酵素を含んだものが何かをもっと知りたい!



バイエル/レポート  
CATCH  
The  
NOW

革新への情熱を持つあなたへ 未来を変えていく力を  
PASSION TO INNOVATE | POWER TO CHANGE

## エンployer・ブランド 連載 Vol.2 「未来を動かす意志はあるか」

Employer Brand, Vol. 2: Motivated to Make an Impact?

革新への情熱を持つ社員と将来の社員に向けて、バイエルの姿勢を表明するエンployer・ブランド。今回は、4つの誓約をベースに社員からの声を聞く連載のシリーズ第2回。「バイエルでは社員一人ひとりが、先駆的なアイデアで人々の人生を変えたいという情熱を持つ人たちとともに、協力しあいながらやりがいのある仕事に携わることができる」がテーマである。

Bayer's Employer Brand promises you inspiring work with people who share your passion to turn pioneering ideas into life-changing solutions.



### 誰かの役に立っていることが 実感しやすい社風が特長

コンプライアンスを担当し「法律上もしくは業界ルール上、問題なくビジネスを進めるにはどうしたらいいか」といった相談にも対応しています。最近ではチーム全員で、社員のコンプライアンス体制を強化するICM (Integrated Compliance Management) プロジェクトを推進しています。意外だったことは、このプロジェクトに対して社員の皆さんが想像以上に協力的だったこと。すでにコンプライアンスに対する意識が高く、主体的に参加して下さってスムーズに運んでいます。

バイエルは自分の仕事があるに立っていることを直接的に感じられる企業です。コンプライアンスを「規制」としてではなく、ビジネスを行っていくうえでの「大前提」として認識し、一歩先のものの考え方ができる環境が、バイエルには整っていると思います。

### 私がバイエルで働く理由



**社員みんなが、患者さん、ビジネスパートナー、ほかの社員を大切に、自分さえよければいいという人がいない**

バイエル ホールディング株式会社  
法務・特許・コンプライアンス  
コンプライアンス

坂本公美



### 私のオススメ書籍

『海辺のカフカ(上)(下)』  
村上春樹：新潮社刊

ひとりの少年が未来を生きていく勇気を身につけていく過程を物語にした村上春樹さんの小説。

### 成長するバイエルでは、 イノベーションと情熱が大切

MR<sup>®</sup>として、大学病院で医師の診療に役立つよう、さまざまな情報を収集、患者さんに貢献できるような質の高い提案をしています。責任の大きさが仕事へのモチベーションとなり、アイデアを生み出す原動力になっています。大学病院は全国でも数が限られており、同じような状況での担当者同士のつながりは貴重。成功の可能性を高くするために、できる限りチームで同じ方向へ動けるよう意識し、数多くの選択肢を持ちつつ、一番良い選択をするために協力は欠かせません。

今はまだMRとして現場で医療とかわかりたいと考えていますが、将来的には医療に携わるバイエルの一企業人として、MR以外の立場で医療に対して貢献できる仕事もしてみたいと考えています。

※MR(Medical Representative)：医薬情報担当者

### 私がバイエルで働く理由



**自分らしく仕事ができる環境があり、  
感覚に従ってそれを実践できているから**

バイエル薬品株式会社  
循環器領域事業部  
営業/東京エリア/第5営業所  
柴原達夫

### 私がバイエルで働く理由



**チャレンジできる社風と  
率直な意見交換ができる  
幅広い分野での仲間存在**

バイエル クロップサイエンス株式会社  
エンバイロサイエンス事業本部 開発部  
山本英樹



### 私のオススメ書籍

『NASAより宇宙に近い町工場』  
植松 努：ディスカヴァー・トゥエンティワン刊

夢を持ち、工夫して「よりよく」を求めるとの大切さ。娘の課題図書がきっかけで手にとりましたが、いろいろ大事なことを学びました。

女性特有の病気やライフステージの変化について、正しく理解してもらう啓発活動

# 女性の健康教育に関する講師派遣授業 「かがやきスクール」

Kagayaki School visiting classes on women's health: Helping youths to better understand a changing set of women's health risks specific to each life stage

女性の健康に関する授業を通じ、次代を担う高校生の皆さんが自身の健康やこれからのキャリアに対して、知識を身につける機会となる「かがやきスクール」。バイエル薬品が2015年からスタートさせたこのプログラムは、女性自身が望む人生設計やキャリアプランを実現するため、女性特有の病気やライフステージの変化について正しく理解してもらうことを目的としている。

今回は、活動の趣旨や実際の授業、講師の先生などを紹介していく。

Launched early this year, Kagayaki (Sparkling) School educates high schoolers – tomorrow's leaders – on women's health to help young women prepare and achieve their career and personal aspirations. Here is a look at this visiting class program.

## ■女性の健康に対する正しい知識を早くから身につけてほしい

Our mission: Enhance adolescents' literacy on women's health

2014年の秋に実施されたアンケート調査では、高校生が女性特有の健康問題、病気について十分な知識を持っていない現状が浮かび上がった。その現状から、地域の産婦人科専門医を講師として高校に派遣し、女性の体と健康について授業を実施。高校生が正しい知識を身につけ、今後ますます輝き活躍できるよう、支援するのが「かがやきスクール」だ。

2015年9月17日に大阪府立夕陽丘高等学校で、こうむら女性クリニック院長 甲村弘子先生を講師に招き「かがやきスクール」を開講。「ライフデザイン」を学ぶ3年生のほかに、校内の教職員、保護者、近隣の学校の家庭科・養護教諭が参観した。

授業は「妊娠」「避妊」「性感染症」「月経トラブル」「将来の自分」をテーマに進行され、生徒たちにとって、女性の体に関する正しい知識を持つことの大切さを学ぶ良い機会になった。

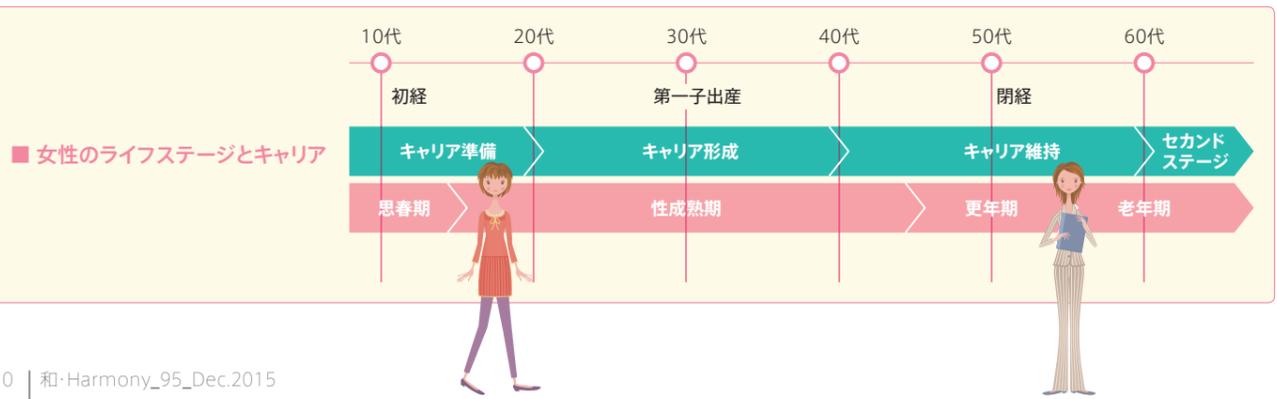
## ■自身のカラダについて、もっと知ってもらう機会を、できるだけ早いタイミングに

Early education is critical: Need to provide opportunities for young women to learn about their body and health



こうむら女性クリニック院長  
**甲村 弘子** 先生  
Dr. Hiroko Koumura  
Head, Koumura Women's  
Clinic

「かがやきスクール」の開講にあたっては、非常に素晴らしい取り組みだと思ひ参加を決めました。自分の体について知らなければいけないことを高校生に教えてあげられる機会はなかなかなく、短時間であってもそれらを伝えられるうれしさを感じています。若いときから現在の健康状態やこれからの健康管理を学ぶことは、妊娠や出産を含めた女性のキャリアプランにかかわり、将来の体、あるいは仕事や生活に大きく影響することを知っていただきたいです。そして、そのタイミングは早いほうが良いと考えています。また、女性特有の健康問題を早期に発見するため、婦人科医への相談もより気軽に行えるよう、理解を深めていただきたいと思います。



## ■外部講師によって、生徒たちにより関心を持ってもらう啓発活動

Education by a gynecological professional is a key to boost high schoolers' interest in women's health



バイエル薬品株式会社  
マーケットアクセス本部  
アドボカシー&  
ベイスメントアクセス部長  
**木戸口 結子**  
Yuko Kidoguchi  
Head of Advocacy &  
Patient Access  
Market Access  
Bayer Yakuhin

女性自身が自分の体についてあまり知らず、婦人科受診への抵抗がある。また、少子化・晩婚化が進み、女性の健康に対するリスクも増えていく。女性のライフスタイルの変化が健康の負担にならないよう、また、適切な健康管理とライフプランニングを通じて、キャリアや夢の実現に備えられるように支援していきたいと考えたのが「かがやきスクール」開講のきっかけでした。高校生

を対象に、普段教えている先生からではなく、ゲストとなる婦人科の先生を派遣することでより専門的な指導を行い、それまで行きにくかった婦人科の受診を身近なものに感じてもらえることも大きな成果のひとつです(下記グラフを参照)。

今後も「かがやきスクール」は継続していく予定ですが、将来的には教材の提供による授業実施の支援など、地域レベルで活動を広げていくことが目標です。

### ■アドボカシーの活動とは

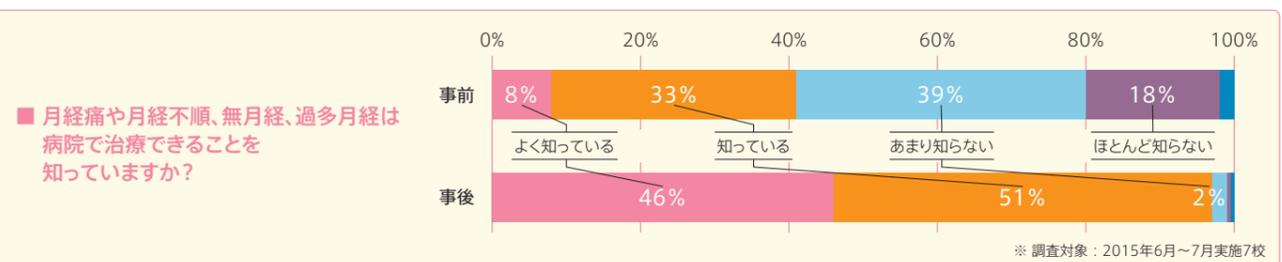
私が所属するアドボカシーは2014年に発足した新しい部署。社会のニーズを注視しながら、中長期的な取り組みとして啓発や政策活動、患者さんの支援を行っています。徐々にではありますが、さまざまな部署と連携をして成果が見え始めたプロジェクトも出てきました。

## ■「かがやきスクール」受講生の知識の向上

Kagayaki School enhances students' understanding

「かがやきスクール」の事前事後調査結果では、女性特有の病気について知識の向上が顕著に表れた。受講した生徒さんからは「産婦人科に行くのは恥ずかしいと思っていたけれど、恥ずかしがっていたらいけない」「自分だけでなく将来の子供のためにも

自分の体のことをもっとよく理解したい」「将来大切なことを今勉強できてよかった」などの意見が寄せられた。また、男子生徒から「女性の健康のことがよくわかり、もっと女性を大切にしようと思った」との意見もあった。



# バイエル、ライフサイエンス事業に沿った組織に改編

Bayer Aligns Organization with Life Science Businesses

9月18日、ドイツ・バイエル社は、ライフサイエンス企業として成長を目指す方針を決定し、2016年1月1日付の新組織を発表した。新たに、医療用医薬品、コンシューマーヘルス、クロープサイエンスの3部門体制に再編し、バイエルブランドの下で成長を目指す。

On January 1, 2016, Bayer will begin operating with a new three-division structure—Pharmaceuticals, Consumer Health and Crop Science—while pursuing growth as a pure Life Science Company under the strong Bayer Brand.

## ライフサイエンス企業として、新組織を発表

バイエルの事業は、2016年1月から医療用医薬品部門、コンシューマーヘルス部門、クロープサイエンス部門の3部門によって運営する新組織に改編される。持株会社と事業グループを擁する現在の組織は、強力なバイエルブランドの傘下で統合された組織に変更、コベストロ(旧素材科学事業)の分離に伴い、バイエルはライフサイエンス事業に特化した企業となる。ドイツ・バイエル社マライン・デッカーズ社長は「新組織の目的は、世界有数のライフサイエンス企業であるバイエルの戦略を最大限に支援すること、競合他社に対してさらに優位に立つことにあります。私たちはイノベーション能力の一層の改善、顧客志向の強化、ビジネスプロセスエクセレンスの強化によってこの目的を達成することができます」と述べている。

新組織において、ドイツ・バイエル社経営委員会は事業運営全体の責任も担う。そのため、監査役会は各部門の責任者として、ディーター・ヴァイナント(医療用医薬品部門)、エリカ・マン(コン

シューマーヘルス部門)、リアム・コンドン(クロープサイエンス部門)を2016年1月1日付で経営委員会委員に任命することを決定。ハートムート・クルージックも、人事、技術・持続可能性担当委員および労務担当として、ドイツ・バイエル社経営委員会に新たに加わる。

バイエルの製品とサービスは、人々のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目的としてきており、今後は医療ケアや高齢化、世界人口の増加などの課題にも対応しなければならない。バイエルは新しい組織の中で、ライフサイエンス企業として成長を目指していく。

Bayer's realignment includes shifting to an integrated organization under the umbrella of the strong Bayer brand, with operational management by three divisions: Pharmaceuticals, Consumer Health, and Crop Science. The aim of the new organization is to provide the best-possible support to Bayer's strategy as a leading Life Science Company and to put Bayer in an even stronger position vis-à-vis its competitors.

## 新しいバイエルのすべてが、ここで説明されています



ライフサイエンス企業としてスタートするバイエルのミッションやブランド、製品、そして新体制をまとめた冊子を作成。2015年10月に制作されたこの冊子は、さまざまな言語に翻訳され、全世界のバイエル社員をはじめ、新しいバイエルの紹介として、社外の方々にも配布している。

## 8月 August

Aug. 24-28

**Bayer CropScience**

「第2回 世界若者農業サミット」  
オーストラリアのキャンベラで開催  
2nd Youth Ag-Summit held in Canberra

Feature  
p.2

## 9月 September

Sep.

**Bayer International**

Making Science Make Sense®  
(ふしぎからはじまるサイエンス)が米国で20周年  
Bayer USA's Making Science Make Sense® turns 20

Pick Up  
03

Sep. 18

**Bayer International**

バイエル、ライフサイエンス事業に沿った組織に改編  
Bayer aligns organization with Life Science businesses

Feature  
p.12

Sep. 24

**Bayer HealthCare**

バイエル薬品 経口抗凝固剤「イグザレルト®錠」の  
深部静脈血栓症(DVT)・肺血栓症(PE)の治療と  
再発抑制に対する適応追加承認を取得  
Anti-coagulant Xarelto® obtains additional indication of deep  
venous thrombosis (DVT) and pulmonary embolism (PE)

Sep. 29

**Bayer HealthCare**

バイエル薬品、ニューキノロン系注射用抗菌剤  
「シプロキサン®注」(シプロフロキサシン注射剤)の  
効能・効果の追加及び用法・用量の変更に係る承認を取得  
New quinolone antibacterial agent Ciproxan Injection® obtains  
approval of expanded indications and dosage/administration  
change

## 10月 October

Oct. 13

**Bayer HealthCare**

バイエル薬品  
「静脈血栓症(エコノミークラス症候群)啓発イベント」を開催  
～第2回世界血栓症デー(10/13)「血栓症予防ラボ」～  
Bayer Yakuhin holds disease awareness event on "World  
thrombosis day"

Feature  
p.6

Oct. 13・14・20

**Bayer HealthCare**

バイエル薬品、中学生向けがん教育「生きるの教室」を  
大阪、滋賀、高知にて開催  
Ikiru-no-kyoshitsu (School for a Better Life) is held in Osaka,  
Shiga, Kochi

Oct. 15

**Bayer HealthCare**

BioJapanにて、バイエルヘルスケア社  
グローバル創薬研究/新薬候補創出・  
社外イノベーション責任者のハンノ・ヴィルト氏が基調講演  
Together we are stronger — 強固な連携を目指して —  
Prof. Dr. Hanno Wild, Head of Candidate Generation and External Innovation  
function of Global Drug Discovery, BHC, makes keynote speech at Bio Japan

Pick Up  
01

Oct. 15

**Bayer HealthCare**

「私のお気に入り」フォトコンテスト フォトブック刊行  
『私に優しい、いいね!が見つかるカラダのミカタ』  
"My Favorite photo book" published

Pick Up  
02

## 11月 November

Nov. 5・11・19

**Bayer in Japan**

ふしぎからはじまるサイエンス  
「わくわく実験びっくり箱」を長野、山梨、鹿児島で開催  
MSMS science program held in Nagano, Yamanashi &  
Kagoshima

Feature  
p.7

Nov. 13

**Bayer HealthCare**

アレルギー性疾患治療剤「クラリチン®」の製造販売承認を  
MSD株式会社より承継  
Transfer of manufacturing and marketing approval of the  
allergy drug Claritin® from MSD

Pick Up  
01

**Bayer HealthCare** バイエル薬品株式会社

## BioJapanにて、バイエルヘルスケア社グローバル創薬研究／新薬候補創出・社外イノベーション責任者のハンノ・ヴィルト氏が基調講演 Together we are stronger — 強固な連携を目指して —

バイエル薬品は、10月14日～16日に横浜で開催された「BioJapan 2015」で、「Together we are stronger — 強固な連携を目指して —」と題した基調講演を行った。このイベントには30カ国から創薬、個別化医療、ヘルスケアなどの分野で約700社、14,000人以上の参加者が集まり、連携を重視するバイエルの方針を広く伝える好機となった。

15日に基調講演を行ったのはバイエルヘルスケア社のハンノ・ヴィルト氏。バイエル薬品 オープンイノベーションセンター (ICJ) 高橋俊一センター長による企画で登壇したヴィルト氏は、バイエルが今後も画期的な治療法を探索するには、強みと能力を補完できる外部パートナーとの協力が不可欠と語り、その鍵となる世界5都市 (ベルリン、サンフランシスコ、シンガポール、北京、大阪) のサイエンス&イノベーション拠点について説明。世界に保有する幅広い提携モデルが、イノベーションを生む重要な要素となっていると解説した。

また、日本では昨年、京都大学産官学連携本部と2年間の包括契約を締結し、これを受け「アゴラ バイエル」を今年2回開催したこと、

今年5月には大学内にバイエル サテライトオフィスを開設し、研究者同士がビデオ会議などを通じて活発な議論を行えるようになったことなどを紹介。2009年にグローバルで開始した研究助成プログラム「Grants4Targets」の日本における本格導入にも触れ、今年1回目の募集では日本からの応募件数が全体の13%に上り、そのうち神戸大学の特命助教の案が採択されるという成果についても語った。

また、初日には海外製薬企業の日本におけるパートナーリングについて、セミナーやパネルディスカッションも行われ、バイエル薬品ICJア

ライアンスマネジャーの栗原哲也氏が海外製薬企業5社と討議。来場者からも多くの質問が寄せられ、バイエルに対する期待の高さ、創薬前段階における製薬企業間の連携の重要性について共有できた貴重なイベントとなった。

Bayer Yakuin joined BioJapan 2015 to showcase Bayer's strategy of partnering for innovation in drug discovery. BHC Global's Prof. Dr. Hanno Wild gave a speech titled "Together we are stronger" to introduce a large audience to Bayer's partnering initiatives and support for innovative external research.



参加者を前に基調講演を行うハンノ・ヴィルト氏



海外製薬会社5社と栗原哲也氏が討議

Pick Up  
02

**Bayer HealthCare** バイエル薬品株式会社

## “私のお気に入り”フォトコンテスト フォトブック刊行 『私に優しい、いいね!がみつかるカラダのミカタ』

バイエル薬品は10月15日、世界メノポーズデー (10月18日)、メノポーズ週間 (10月18日～24日) を前に、フォトブック『私に優しい、いいね!がみつかるカラダのミカタ』を刊行した (非売品)。

妊娠・出産回数が減少傾向にある現代女性は、生涯に経験する月経回数が増えており、これにともない月経関連のトラブルや婦人科疾患が増加しているといわれている。バイエル薬品が2011年に約2万人の日本人女性を対象に行った調査でも、74%の女性が月経にともなう不快な症状を抱えているにもかかわらず、婦人科受診率は約2割と低いことがわかっている。

そこで、女性の健康と月経に関する正しい知識の普及と社会の理解を深めることに寄与することを目的に、2012年・2013年に“私のお気に入り”フォトコンテストを実施。本

書ではその受賞作品から47点の心温まる癒やしの写真とエピソードを収載するほか、女性のライフステージと女性ホルモンの変化、月経の仕組み、月経周期にともない現れる症状とその対処法、避妊、更年期症状、婦人科検診など、知っておきたい女性特有の健康問題とヘルスケアについても幅広く解説している。

ウィメンズヘルスケア&エスタブリッシュメントプロダクツ事業部長の楠本明久氏は「女性のニーズに合ったさまざまな情報提供や啓発活動により、今後も女性の健康的な生活をサポートしていきます」と力強く語る。なお、本書は10月下旬より全国の公立図書館、大学・短大、高等学校、約8,000件に寄贈している。

◎問い合わせ窓口: bayer\_photobook@mail-net.co.jp (2015年12月25日まで)

Bayer Yakuin published a book of heart-warming photos and messages from the “My Favorite” Photo Contests to educate women on menstruation and other female health concerns and to encourage them to receive support from gynecologists. Copies are being donated to libraries, colleges, and high schools.



フォトブック『私に優しい、いいね!がみつかるカラダのミカタ』

Pick Up  
03

**Bayer International** バイエルグループ

## Making Science Make Sense® (ふしぎからはじまるサイエンス) が米国で20周年

Making Science Make Sense (MSMS) は体験・質問型の理科学習を通して、科学の理解力、公共教育の向上を図ることを目的としたバイエルの全社的イニシアチブ。米国においてこの活動が20周年を迎え、これを機に新しい取り組みについて発表された。

1995年以来、バイエルは米国の理科教育とその発展を評価する調査を実施してきた。調査結果によると理科教育は着実に進歩しているものの、改善を迫られていることが判明。調査対象の科学者、教師、保護者、生徒からは「学校は理科教育をもっと重視する必要がある」「実験は子どもが科学について学ぶ最善の方

法」「実験による理科学習に関わりたいと思っているが、資源と支援を必要としている」などの考えが示された。

これに答え、バイエルは2020年までの5年間で100万人の子どもが理科実験に触れる機会を提供すると発表。また、科学的想像力を刺激してくれた教師や専門家に感謝の気持ちを伝えるため、SNSでキーワードのシェアを呼びかける「Thank Youキャンペーン」も展開した。

バイエルは過去20年にわたり、全米で科学理解力を向上させるという伝統を築き、何万人もの教師と何十万人もの生徒のために、戦略的提携と社員のボランティア精神を組み合わ



せることを通じて、学習向上のサポートをしてきた。これらの実績をもとに、バイエルでは「2020年までに100万人の子どもが理科実験に触れる機会を提供する」という新たなミッションを掲げ、米国の科学の発展に大きく寄与するものと、国内外から大きな期待が寄せられている。

Making Science Make Sense, Bayer's hands-on educational program for building children's scientific literacy, is marking the 20th anniversary of its launch in the US with a pledge to provide 1 million science learning experiences for children by 2020.

## New Products

Aug. 24

### バイエル クロップサイエンス株式会社 新規麦用除草剤「リベレーター®フロアブル」(水和剤)、 「リベレーター®G」(粒剤)

バイエル クロップサイエンスは、新規有効成分を配合する新規麦用除草剤「リベレーター®フロアブル」(水和剤)、「リベレーター®G」(粒剤)の販売を、北海道を除く全国で開始した。本製品は、一年生イネ科雑草に効果の高いオキサセトアミド系除草剤「フルフェナセット」と、キク科、ナデシコ科、アブラナ科などの一年生広葉雑草に有効なニコチンアニリド系除草剤「ジフルフェニカン」を配合。これら2つの有効成分により、広範囲の麦畑雑草に除草効果を発揮し、さらに既存の除草剤に抵抗性を有するスズメノテッポウに対して優れた効果を示す。また、幅広い散布適期幅を有するため余裕をもって使用でき、そのうえ長い持続効果が期待できる。この新たな麦用除草剤の発売により、雑草問題から農家さんを解放し、高品質な麦作りのサポートを目指している。



## PRESENT

### ガーデニングを始めるならまずはそろえたい FISKARS社の「花はさみ」と「ガーデンスコップ」のセットを 3名様にプレゼント!

正解者の中から「花はさみ」と「ガーデンスコップ」のセットを3名様にプレゼントします。クイズの答えとともに会社名、住所、電話番号、『和・Harmony』の感想を明記のうえ、ハガキまたはFAXでご応募ください (締め切り2016年1月31日)。当選発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

宛先

〒100-8268 東京都千代田区丸の内1-6-5  
バイエル ホールディング株式会社  
広報本部「和・Harmony」プレゼント係  
FAX 03-5219-9705

個人情報 (氏名、住所、電話番号) は当社によるプレゼントの発送の目的以外には利用いたしません。前回のクイズの解答は「イノベーションに注力!」でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

○にあてはまる言葉を埋めてください。

農業と食糧問題の  
未来について考える  
世界○○○○サミット



No. 95/2015年12月

- 発行人/バイエル ホールディング株式会社 広報本部 松井繁幸
- 編集デスク/松本陽一、小原葉子
- 編集委員/増田玲子 (BYL)、荻上敬子 (BCS)
- 所在地/〒100-8268 東京都千代田区丸の内1-6-5  
バイエル ホールディング株式会社 広報本部
- TEL/03-6266-7255
- FAX/03-5219-9705
- URL/http://www.bayer.co.jp
- 制作/ウィズワークス株式会社
- 創刊/1986年1月
- お願い/転載転写ご希望の際は、必ず発行者までご連絡ください。

#### 日本のバイエル

##### バイエル ホールディング株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8268  
Tel. 03-6266-7010

##### Bayer Holding Ltd.

1-6-5 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8268  
Tel. 03-6266-7010

##### バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001  
Tel. 06-6133-7000

##### Bayer Yakuhin, Ltd.

2-4-9 Umeda, Kita-ku, Osaka 530-0001  
Tel. 06-6133-7000

##### 日本メドラッド株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001  
Tel. 06-6133-6250

##### Nihon Medrad K.K.

2-4-9 Umeda, Kita-ku, Osaka 530-0001  
Tel. 06-6133-6250

##### バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262  
Tel. 03-6266-7007

##### Bayer CropScience K.K.

1-6-5 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8262  
Tel. 03-6266-7007



この印刷物は、FSC® 認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPIにより製版しています。